

*Deporaus unicolor*

日本甲虫学会

Coleopterological Society of Japan

HP : <http://kochugakkai.sakura.ne.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/coleopterology>

Twitter 日本語アカウント : <https://twitter.com/kochugakkai>

英語アカウント : https://twitter.com/Coleopt_Soc_Jpn

「日本の多様な甲虫学の発信を」

甲虫学会 会長挨拶 大原昌宏

台風が巨大化し、ムシの季節もずれがちな昨今ですが、皆さまお変わりないでしょうか。ちなみに、私の千葉県大網白里の実家は、屋根が先の台風で吹っ飛びました。

さて、前号につづき、これまで私が日本甲虫学会に関わってきたことを記して挨拶にかえさせていただきたいと思います。ひきつづき、欧文誌のことです。

欧文誌 *Elytra* のような甲虫学を専門とした雑誌は、国外にいくつかあるかと思いますが、学会として欧米で出版されているものに、“*Coleopterists Bulletin*” と “*elytron*” があります。前者は北米の甲虫学会 (The Coleopterists Society)、後者はヨーロッパ甲虫学会 (European Association of Coleopterology) による刊行です。これらの雑誌と私たちの “*Elytra*” を比較してみることは、日本甲虫学会の在り方を考える上で参考になるかもしれません。以前、前々編集長の上野俊一先生が「*Elytra* はページ数では世界一の甲虫雑誌になった」と2000年頃におっしゃっていました (1999年の *Elytra* は654ページ、*Col. Bull.* は398、*elytron* は196)。続けて先生はいくつかの意見もされました。

Coleopterists Bulletin は、1947年に出版が始まり、現在72号に達しています。6x9インチ版の小型の雑誌でしたが、最近では2段組に変更され7x10インチのやや大型版になりました。現在はBioOneと連携し、学会員は電子媒体を無料で見ることができ、希望により紙媒体も郵便で受け取れます。ページ数は年々増えて、2018年は878ページに達しています (*Elytra*, n. ser. の約2倍)。内容も118論文のうち、成虫記載55編 (46%)、幼虫記載5編 (4%)、応用・生態・生活史32編 (27%)、分布記録21編 (17%)、昆虫文化1編 (1%)、書評4編 (3%) と多様になっています。私たちの *Elytra*, n. ser. 8号 (2018) は、454ページ。内訳は、75論文中、成虫記載40編 (53%)、応用・生態・生活史6編 (8%)、分布記録28編 (37%)、化石1編 (1%) となります。

elytron は、1987年に出版が始まり、24号 (2010) までが北大農学部図書館に保管されていました (25号はCDでした)。その後、電子出版のみになり29号 (2017) まで出版されているようです。独自のホームページ (HP) が開設されており (<http://www.ub.edu/aec/>)、会員はweb上での閲覧となるようです。HPからのバックナンバーの購入も可能です。内容は24号 (142ページ) では、成虫記載6編 (75%)、応用・生態・生活史2編 (25%) と8編しか論文がなく、少し活気がなくなってきました。29号の電子版では論文は1編のみです。学会としては雑誌継続が厳しい状況なのかもしれません。もっともページ数の多かった5号 (1991) では論文35編 348ページで、内訳は成虫記載20編 (57%)、幼虫記載10編 (28%)、生態・生活史5編 (14%)、形態2編 (5%)、書評3編 (8%) と多様で特に幼虫学が盛んです。

上野先生との海外の甲虫雑誌の話の続きは、「*Elytra* には幼虫記載、生活史、生態などの論文が少なく、欧米に比べ日本の甲虫学の多様性は低い」という先生の意見でした。この傾向は上記の数字を見ても、今の *Elytra*, n. ser. でもあまり変わっていないようです。和文誌『さやばね』も加味しないと学会員の正確な活動内容の学会間比較とならないのかもしれませんが、今後、若い会員の方々には是非英文で国際的に日本の多様な甲虫学を発信してもらえればと願っています。

【年次大会(九大):11/30-12/1】
各種申込み〆切が近づいています！

大会 HP : <http://kochugakkai.sakura.ne.jp/event/taikai/taikai2019.html>

- ・分科会申込：10月15日（火）【受付〆切を延長します。ただし、枠が埋まり次第、受付終了とさせていただきます】
- ・研究発表申込み：10月15日（火）
- ・大会参加早期申込：10月31日（木）までにお申込みの方は参加費のみを半額割引します（一般1,000円，学生500円）
- ・懇親会（一般6,000円，学生4,000円程度予定）は当日も受け付ける予定ですが、定員に達した時点で締め切りますからご注意ください。

※問合せ等は、すべて大会事務局長の細谷忠嗣氏（九州大学持続可能な社会のための決断科学センター）まで。

E-mail: tadatsugu.hosoya.848@m.kyushu-u.ac.jp

地域例会(年末・春季)のご案内

【東京12月例会の講演内容は和文誌には掲載されてませんが、下記のとおりです】

東京 <http://kochugakkai.sakura.ne.jp/event/tokyo/tokyo.html>

- 12月例会：12月21日（土）
 - ・コガネムシの円偏光選択的構造色：発色機構とその進化の解明を目指して
 - ・日本産ヒメハナカミキリ属雄交尾器内袋の比較形態学的研究
 - ・日本産ナガタマムシ属の雌交尾器における比較形態学的研究
- 3月例会：2020年3月14日（土） 内容未定

大阪 <http://kochugakkai.sakura.ne.jp/event/osaka/osaka.html>

- 年末例会：12月14日（土）
 - ・ハンミョウ類における生態と体色の多様性
- 春季例会：2020年3月28日（土） 内容未定

日本甲虫学会 ニュースレター 第21号

2019年10月10日発行 ※本ニュースレターは主にHPの更新履歴に基づき、プレーンテキストにて不定期でメール配信しています。以後の配信停止ご希望の方はご連絡ください。過去の更新履歴も、PDFでご覧いただけます。

<http://kochugakkai.sakura.ne.jp/newsletter/newsletter.html>

(web担当：初宿・山本 webmaster@kochugakkai.sakura.ne.jp)